

新時代の教育を支えるために

市では、タブレット端末を活用した学びをより効果的にするために、様々な取組を行っています。

01

情報モラルの育成

便利な ICT 機器も「使い方」には注意が必要です。子どもたちをトラブルや犯罪から守るため、インターネットを利用するときの注意事項やマナーなどについて学ぶ教室を開催し、子ども自身が使い方を考える機会を作っています。



ナーなどについて学ぶ教室を開催し、子ども自身が使い方を考える機会を作っています。

◀出合小学校での教室の様子

02

教員のスキルアップ

各学校では、より良い授業を目指し年間を通して研修などを行っています。

本山小学校では、10月25日にユニット型研修会が開催され、他の小中学校の先生、地域の人や保護者らが参加。実際の授業を見学した後、授業の中での良さや課題を検討しました。



03

学びを止めない

病気や入院など、様々な理由で通学が難しい子どもも、オンラインにより授業に参加したり、クラスメイトと交流したりすることができます。また令和2年度、新型コロナウイルス感染症の影響により一斉休校となったときも、先生が授業動画を配信するなどし、家庭学習をサポートしました。

04

図書室でもしかけ作り



厚陽小中学校学校司書
日高佐和子先生

タブレット端末を使って、本の紹介や図書だより、図書クイズの配信をしています。より本を好きになって、いろいろな本に触れるきっかけになってほしいです。

05

ICT 支援員によるサポート

ICT 支援員とは、学校での ICT 活用を支援する専門スタッフのことです。本市では2人の ICT 支援員が活躍しています。

子どもたちの操作のお手伝いや、授業への助言、先生方の校務の効率化などのサポートをしています。ICT がより身近な手段の一つになるよう、今後もサポートしていきたいです。



林賢志朗さん

子どもたちが新しい機能を習得したときや、作成した教材を使った授業が成功したときは達成感があります。この支援が、子どもたちの将来の手助けになればとても嬉しいです。



松浦宏美さん

終わりに

1人1台端末の導入によって授業の様子も大きく変わり、現在では端末を用いた授業が日常の風景となっています。子どもたちは、インターネットを通して多くの情報を収集したり、自分の考えをプレゼンテーションソフトを利用してまとめ発信したりするなど、端末を効果的に活用しています。

現代社会は、デジタル技術やデータの利活用により、経済発展と社会的課題の解決を両立することを目指す Society5.0 と呼ばれています。これからの社会を生き抜く子どもたちにとって、端末は仕事や生活に欠かせないマストアイテムとなっていきます。子ども一人ひとりが、端末の基本操作を確実に習得するとともに、自身で適切な使い方を考え、判断、実行できる情報活用能力を身に付け、明るい未来を生き抜いていってほしいと願っています。

長谷川裕教育長

